

第94回 経営協議会議事録

日時 令和2年6月29日(月) 14時00分～16時47分

場所 和歌山大学南1号館(事務局棟) 3階共通会議室

出席者 伊東学長

熊谷委員、島委員、下委員、清木委員、田村委員、辻委員、西平委員、森田委員

永井、恵下、藤本、松谷、山本 各理事

(松原監事、田中監事、添田副学長、クパニ副学長、足立副学長、本山教育学部長、マグレビ経済学部長、宗森システム工学部長、尾久土観光学部長、橋本企画課長、南方総務課長、大林財務課長、藤原施設整備課長)

欠席者 なし

学長から、第93回(3月10日)の議事録について確認があった。

学長から挨拶があり、続いて経営協議会委員の紹介及び挨拶があった。

次に、学長から和歌山大学の概要説明があった。

議題

1. 平成31事業年度に係る業務の実績及び第3期中期目標期間に係る実績に関する報告書等について

添田副学長から、資料1-1～1-8に基づき説明があり、審議の結果、了承した。

(主な質疑)

・観光学研究科で博士号を取得したのは何人か。そのうち、和歌山大学の観光学部を卒業し、観光学研究科に進学して博士号を取得したのは何人か。また、それらの者はどういう方面で活躍しているのか。

→観光学研究科で博士号を取得した者は7名、今年度の修了予定者を含めると2桁の人数になる予定。そのうち、本学の観光学部を卒業し、観光学研究科に進学し博士号を取得した者が2名で、観光を専門分野とする大学教員として活躍している。また、修士課程修了者も含めると大学教員として勤務している者が8名、それ以外の者のほとんどが社会人なので、現職に戻られる。

・紀伊半島価値共創基幹を創設して食農を進めるとのことであるが、和歌山大学に農学部がないが、どう組織をつくり、今後どう進めていこうとしているのか。

→紀伊半島価値共創基幹の中に、食農総合研究教育センターを設置し、地域

<p>の自治体や企業と一緒にあって、和歌山県の農産物や地場食品から価値を見出す取組を実践することとしており、センターの教員だけでなく他学部の教員にも協力してもらい大学の知見をフル活用して取組を進めることとしている。</p>
<p>2. 令和元年度決算（案）について</p> <p>藤本理事から、資料2に基づき説明があり、審議の結果、了承した。</p> <p>（主な質疑）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立大学が法人化した際に、国の時代からの承継職員については国が責任を持って退職金の面倒を見ることとなっていたが、昨年度は予期せぬ退職者が出たことにより支出額が増え、その分の額を今年度に国から予算措置されたということであるが、総じて退職手当にかかる和歌山大学の持ち出し分はないという理解で良いか。</li> </ul> <p>→そのとおりである。</p>
<p>3. 令和3年度概算要求について</p> <p>松谷理事及び藤本理事から、資料3に基づき説明があり、審議の結果、了承した。</p>
<p>4. 学長選考会議委員の選出について</p> <p>（学長が退席した上で）松谷理事から、資料4に基づき説明があり、審議の結果、学長選考会議委員は、産業界から島委員、自治体関係から下委員、大学関係（行政を含む）から清木委員、高等学校関係から田村委員に決定した。</p>
<p>報 告</p>
<p>1. 令和2年度役付職員等について</p> <p>学長から、資料5に基づき説明があった。</p> <p>（主な意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価関係の資料が膨大で非常に分かりにくい。資料に、内容の把握が容易となるよう分かりやすい概要ペーパーを添付するなど、工夫をしていただきたい。</li> <li>・和歌山大学が実施している研究や地域貢献が見えにくい。研究活動の情報等を積極的に発信する仕組みを検討いただきたい。</li> <li>・大阪の私立大学と和歌山県内の市町村と協定を締結していると聞く。和歌山大学は、地域（県内の市町村等）との連携を一層強化すべきである。</li> </ul> <p style="text-align: right;">以 上</p>